総合医学会報告

2023年シンポジウム：医療論文を書いてみよう

NHOネットワーク共同研究 －AROとの取り組み

永井宏和† 吉田 功*

第77回国立病院総合医学会
2023年10月20日 於 広島

IRYO Vol. 78 No. 4 (221－223) 2024

要旨 現代の医療は，先人たちが築いたエビデンスの上に成り立っており，医療を進歩させるためには，われわれも臨床研究を行いエビデンスを創出していかなくてはならない．医療論文は，エビデンスを効果的に世界に発信し記録する方法である．共同研究者とともに試験を計画・実施していくが，生物統計家を含めた協力体制が望ましい．ARO（Academic Research Organization）は，研究計画から論文作成までを，研究者と共に進捗させることができる組織である．名古屋医療センターはAROを備えており，NHO共同研究をはじめ他の国立病院機構所属施設の臨床研究の支援なども実施している．

キーワード 臨床研究，医療論文，ARO，NHO共同研究

はじめに

本シンポジウムでは，私たち医療者が医学論文を執筆することの意義や実際について５人のシンポジストにより発表された．現在の医療の礎となっているエビデンスの多くは臨床研究結果から確立している．これらの研究結果を広く発信し，世界中の医療者の評価を受けることは，エビデンスを積み上げる上できわめて重要な過程である．その手法として，医学論文がある．本稿では，名古屋ARO（Academic Research Organization）が支援した多施設共同研究の試験例を中心に，論文作成に至る過程を示す．

臨床研究とは

臨床研究は，医学が始まった時点から存在している．ヒポクラテスがおこなったような科学的な観察と記述などは，臨床研究の礎になった．一症例一症例に十分な考察を加えることや，同一症状や経過を示した症例の集積や予後の検討などの膨大な知見により，医学が発展しきた．エビデンスレベルピラミッドでは（図１），症例報告以上が臨床研究とされる．しかし，研究結果を学会などで発表するだけでは，エビデンスの蓄積にはならない．広く世界に情報発信し，後世まで残る記録とするためには論文発表が必要である．

国立病院機構名古屋医療センター 臨床研究センター 先端医療研究部 血液内科，＊国立病院機構四国がんセンター
†医師
著者連絡先：永井宏和 国立病院機構名古屋医療センター
〒460-0001 愛知県名古屋市中区三の丸４－１－１
e-mail：nagai.hirokazu.uf@mail.hosp.go.jp
(2024年４月３日受付 2024年８月２日受理)
National Hospital Organization Collaborative Study Group: In Cooperation with ARO
Hirokazu Nagai and Isao Yoshida*
NHO Nagoya Medical Center, ＊NHO Shikoku Cancer Center
(Received Apr. 3, 2023, Accepted Aug. 2, 2024)
Key Words：clinical research, medical paper, ARO, National Hospital Organization Collaborative Study Group